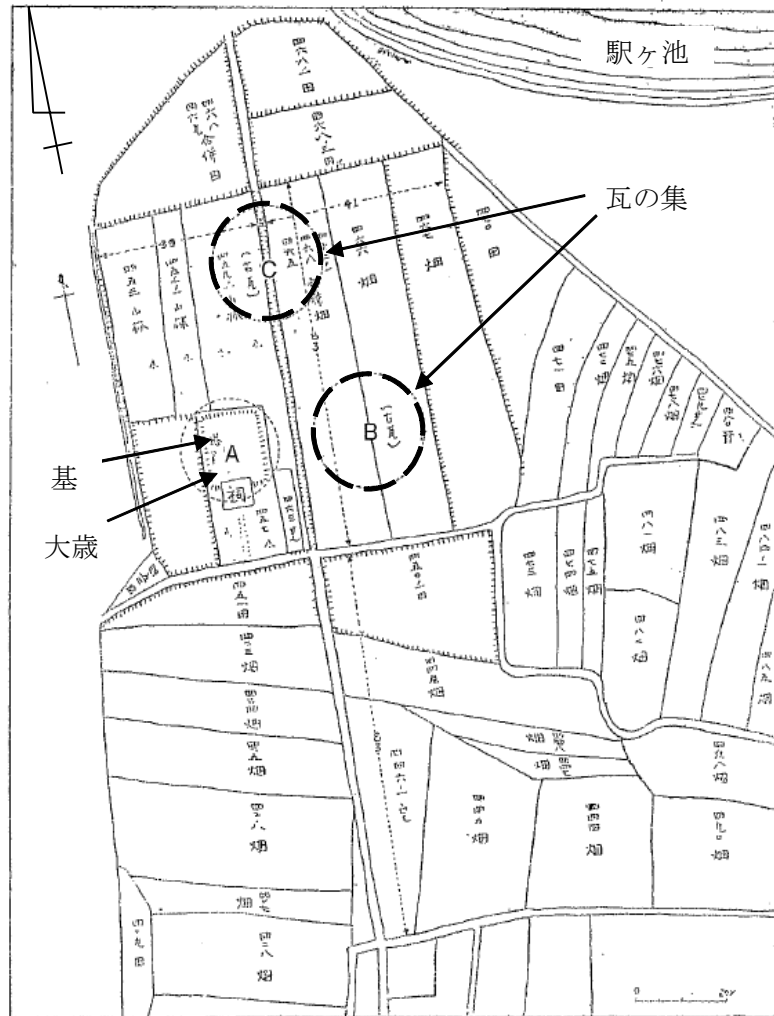


「賀古駅家、発掘ものがたり」 7 <賀古駅家の現状>

これまでみてきた先学の成果により、古文献に記された「賀古駅家」は加古川市野口町古大内の大歳神社周辺にあることが明らかとなりました。この場所からは播磨国府系瓦などの大量の瓦が見つかり、駅家を囲んだ築地塀の跡と思われる一辺 80 m の正方形の地割りも残されています。さらに戦前までは正方形地割りの内側に壇状の盛土（古代の建物の基礎となる基壇）までも残っていました



鎌谷木三次 1942年『播磨上代寺院址の研究』を

一部改変

(鎌谷木三次 1942年『播磨上代寺院址の研究』)。

しかし、今、現地立つと家やフェンス、さらには、この正方形区画の中央を南北に通る道（地元の方は「新道（しんみち）」と呼ばれています）が通っているために、しばらく歩き回らないと当時のイメージだけでなく、方形地割りさえ、わかりにくくなっています。基壇については全く消滅しています。

このように賀古駅家の場所が特定されたものの、発掘調査によって確認されたものではなく、極めて可能性が高いものの、あくまで状況証拠の積み上げでしかありません。大歳神社周辺の方形区画が本当に奈良時代のものなのか、証明されたものではありません。

こうした研究状況の中で、ついに発掘調査のメスが入られました。発掘調査の醍醐味は、まさに「ナズの解明」にあり、新たな地域史の掘り起こしにあるのです。